

# 平成22年度第6回都市経営会議

日時 平成22年7月2日(金) 16:00~16:15  
会場 市長応接室  
参集者 西尾市長 谷澤副市長 中林水道局長  
上戸総務部長 片岡財務部長

## 議題 「函館圏都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」の原案について

◎対応 荒井都市建設部長 戸内次長 山田都市計画課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

北海道が決定している函館圏の「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」について、平成21年度第21回都市経営会議で素案が承認され、関係機関との協議を経て原案が固まったことから、都市建設部から提案がなされました。

### ◆ 協議の結果 ◆

原案については了承されました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■ 荒井都市建設部長

平成21年度第21回都市経営会議において素案を承認いただいたことから、地元関係機関と協議して原案をとりまとめたので、協議いただきたい。承認いただけた後には市の都市計画審議会、経済建設常任委員会へ報告するとともに8月上旬には北海道に申し出し、来年2月の北海道都市計画審議会を経て決定される予定となっている。

素案からの修正点は、都市づくりの基本理念の部分に「地球環境時代に対応した低炭素型都市構造への転換を見据えながら」という一文を加えたことと、他の圏域とのバランスの関係などから一部字句を訂正していることである。

#### ■ 西尾市長

素案時の協議経過を確認したい。

#### ■ 山田都市計画課長

当初の素案では、昭和や石川の開発で出来た市街化調整区域の穴抜け地区については、土地利用を認めるとしていたが、現状の枠組みのなかで当面の宅地需要に対応できることなどから、これを認めないこととした。

#### ■ 西尾市長

10年後に見直しすることになるのか。

■ 山田都市計画課長

目標年が平成 32 年となるので、10 年後に見直しすることになるが、社会情勢に大きな変化があった際などには必要に応じ見直すこととなる。

■ 中林水道局長

低炭素型都市構造とはどのようなものか。

■ 山田都市計画課長

都市計画では、コンパクトなまちづくりを進めるという考え方になる。

■ 片岡財務部長

長期未着手の都市計画道路は見直しを進めるのか。

■ 山田都市計画課長

見直しについては昨年より実施しているところである。

■ 西尾市長

人口が減少するなか、既成市街地を整理し何十億もかけて整備することは出来ない。開発は終わりということでもいいのではないか。

■ 荒井都市建設部長

そういうことになると思う。

■ 谷澤副市長

平成 32 年の将来人口を 24 万 8, 600 人としているが、総合計画を踏まえた数字となっているのか。

■ 山田都市計画課長

総合計画では、新幹線による開業効果などを見込んで、平成 28 年の将来人口を 28 万人としているが、本計画ではもう少し減ると見込んでおり、実態に近い数字となっている。

■ 西尾市長

国の政策によって荒廃させられてしまったと感じる。大店立地法などの規制緩和によって土地が荒れてしまい、コンパクトなまちづくりと言っても急には実態はついて行けない。

■ 荒井都市建設部長

一度膨張してしまったので、コンパクトなまちづくりは難しい。

■ 西尾市長

原案については了承した。